

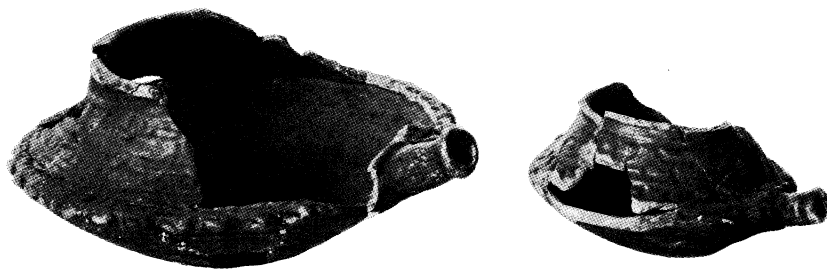


滝沢村分レより岩手山を望む



土 器（縄文晩期）

滝沢村大字鶉飼，大畑遺跡出土、昭和48年滝沢村教育委員会において発掘調査、標高 200 ㍍内外のところ約1ヘクタール以上にわたっており通称大畑と呼んでいる。出土品は土器、石器多数でありダンボール箱10個程度あり、ほとんど縄文晩期のものである。



旧役場庁舎

町村制定施行から大正2年現在地に建築される前の庁舎として使用、現在滝沢村公民館に復元保存す。



旧役場庁舎

大正2年建築、昭和36年現庁舎になるまで48年間使用す。



南部曲り家と秋の収穫期

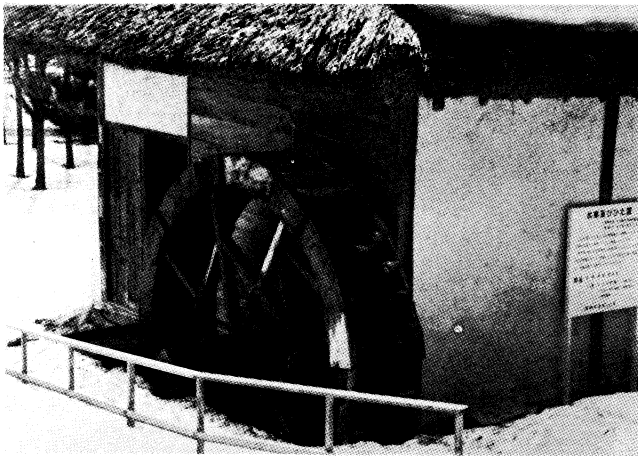
馬を一つ屋根の下に可愛いがり、育てたのが曲り家であり、このような農耕風景も失われつつある。





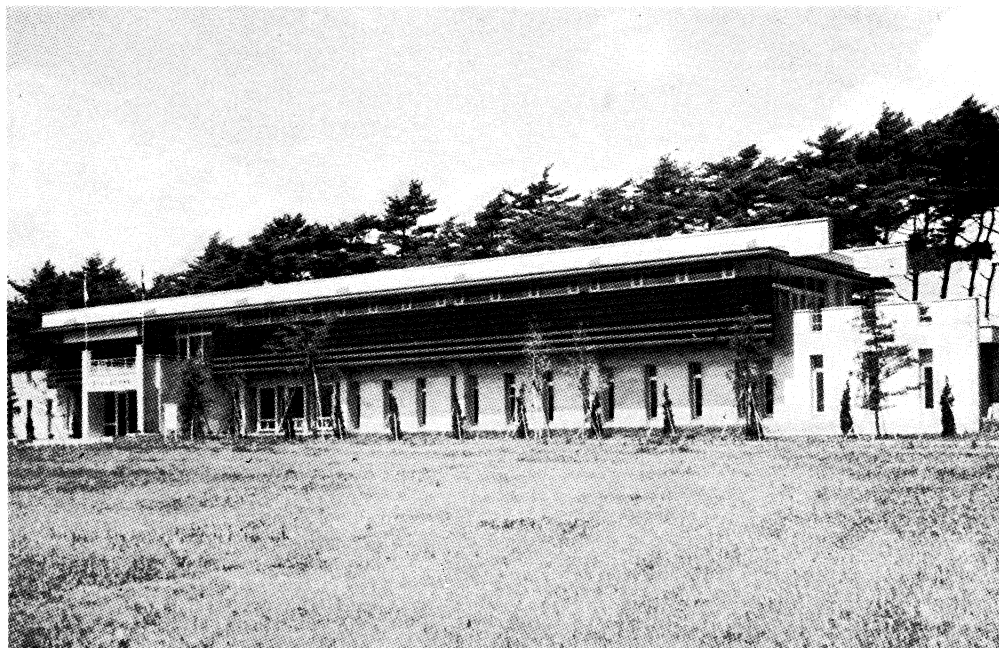
バツタリと水車

穀物の精白に使用す。中には、昭和20年頃まで使用された。



岩手県立農業博物館

岩手県の農業の変遷を伝える貴重な資料を保存、展示されている。





篠木神楽

起源は相当古く、原形が保存されていることから貴重とされている。村の文化財として指定保存をはかっている。

チャグチャグ馬コ

この行事は慶長年間に起源し、馬に装飾をつけ、滝沢村鵜飼の駒形神社（御蒼前様）にお詣りし、無病息災、五穀豊穰をお祈りするならわしになっている。現在は端午の節句を6月15日を祭典の日としている。

